

**男子の部** 日ソ協記録委員 松本 正文

第27回全日本大学男子選手権大会は32チームが参加し、香川県観音寺市、大野原町、豊浜町において開催された。明るい東四国国体開催を控えた香川県では今大会を国体リハーサル大会と銘打ち、行政機関と協会が一体となって運営に当たった。

さて、過去26回のうち20回の優勝に輝く日本体育大学が、昨年に続き21回目の栄冠を克ち得るか、また、これを阻むのはどこか。さらには新記録の達成等、数々の興味を抱かせながら行わ

れた大会であったが、中京大学の14年ぶり3度目の優勝によって幕を閉じた。

冒頭から苦言を呈して心苦しいが、

好ゲームが続出した反面、試合時間の長いゲームが随分と目についた。90分以内のゲームが僅かしかなく、緊迫感に乏しい結果となつたのは残念である。

投球間隔が長い、いたずらに打者席をはずす、攻守交代の時間が長い等が主な原因であるが、今後はこれらの点を改めて迫力に満ちたゲームを開拓するよう切望する。



優勝した中京大チーム

## 中京大14年振りの優勝飾る 日体大2回戦で早稲田に敗れる

日体大は1回戦では3安打ながら宮平永義の力投もあって延長戦の末に辛勝したが、2回戦で早稲田に完封負けを喫し連覇の夢は消えた。日体大は

初回の二死満塁を逃し、逆にその裏2

安打と暴投などで1点を許したのが致命傷となつた。その後は早稲田につけて入る隙を与えるなかだけに、悔やま

前年度準優勝の國士館大は、1回戦2安打、2回戦1安打で相手を完封して貫禄を示したが、準々決勝戦で中京大にサヨナラ負けを喫した。國士館は、1点リードで迎えた最終回、兼久直也がそれまでの好投がうそだったかのように突如制球を乱して2四球を出し、味方のエラーも絡んで満塁のピンチに立たされた。そして打者・仲田浩之への平凡な外角球の初球を右中間に強打され痛恨の逆転負けとなつた。

2回戦で日体大を屠った早稲田は今

中京は1回戦でエース竹下明宏が不慮の事故に遭う不運にもめげず、鉄壁の守備陣と打線の奮起により準々決勝戦に進出、苦戦の末ゲームをものにした。

中京は1回戦でエース竹下明宏が不慮の事故に遭う不運にもめげず、鉄壁の守備陣と打線の奮起により準々決勝戦に進出、苦戦の末ゲームをものにした。

# 第27回全日本大学男女選手権

●平成4年8月7日(金)～10日(月)  
●男子 香川県観音寺市／三豊総合運動公園広場他  
●女子 香川県坂出市／林田運動公園  
三豊郡大野原町／萩の丘公園広場  
豊浜町／町民野球場他  
綾歌郡国分寺町／町民野球場他

## ●投手部門

☆寺岡博樹 (四国学院) (対盛岡大)	1試合最多被安打 12
☆元木浩一郎 (盛岡大) (対四国学院)	1試合両チーム最多得点数 5
☆岡崎道浩 (盛岡大) (対四国学院)	1試合個人最多安打数 5
☆盛岡大 (対四国学院)	1イニング1チーム最多打数 29
●打撃部門	
☆四国学院対盛岡大	1試合両チーム最多安打数 14
・1イニング1チーム最多打数 28	最多得点数 25
・1試合1チーム最多安打数 20	最多打点数 21
・1試合個人最多安打数 24	最多打点数 21
・1試合両チーム最多得点数 5	最多打点数 21



西野投手(中京大学)

打を浴びせ1点差でこれを破った。

決勝戦は、初日雨天中止のしわ寄せが最終日におよび、3連戦という過酷な日程が組まれており、早稲田、中京のナインたちは疲労もその極に達していたであろうと思われた。しかし、共に気力を振り絞つてぶつかつた。

中京は2回、3連打で1点を先取。

4回には上森範人の2点本塁打でリードを広げた。早稲田・長谷川誠は3連投の疲れからコントロールを乱し、明らかなボール球が多く5四球を与えた。一方、中京・西野和也はグラウンド整備中断後にリズムを崩して1点、7回にはエラー絡みで1点を失い最後まで気をもませたが、後続を絶ち14年振りの栄光をもたらした。

感動の胴上げを見つめながら「エー」

ス竹下の骨折という苦しいときに西野がよく頑張ってくれたのが最大の勝因」と語る山内真一監督の目は赤く潤んでいた。敗れた早稲田も死力を尽くしてよく頑張った。

汗と泥にまみれた両チームの激突に会場から惜しみない拍手が鳴りやまなかつた。

## ☆決勝戦(15時25分~17時34分)

## 中京大14年ぶりの優勝

中京	0	1	0	2	0	0	0	3
早稲田	0	0	0	0	1	0	1	2

(中) ○西野—石井  
(早) ●長谷川—赤坂

## △上森(中)

[審] P 松下	1	小塙	2	村瀬	3	高岡
----------	---	----	---	----	---	----

早稲田	0	6	0	0	1	0	X
	7x	0					

(早) ○長谷川—赤坂  
(愛) ●山下—安田

## △田中・増野(早)

[審] P 田中	1	岡内	2	因藤	3	赤木
----------	---	----	---	----	---	----

早稲田は2回、四球の走者二人を置いて二死から1番石井の左翼前安打を皮切りに連続5本の長・短打で大量6点を挙げ試合を決めた。さらに5回にも1点を加えダメを押した。

一方、愛知は1回に満塁のチャンスがあつたが、長谷川投手に抑えられ、その後も安打を放つものの得点に結び

中京は2回、一死後6番中村が二遊間安打で出塁し、ワイルドピッチで二進。7番石井の二遊間安打で好走よく1点を先取した。さらに4回にも8番西野が四球で出塁、代走が盗塁と暴投で三進に成功し、一死後1番上森の左翼越え本塁打で2点を追加し、14年ぶりの優勝を決めた。

一方、早稲田は5回に1点、7回には一死後、失策・安打・捕逸で1点を追加しなおも攻めたが惜敗した。

(評) 細川 和子

## ☆準決勝戦(11時40分~13時30分)

早稲田大、2回に大量6点をもぎ取り試合を決める

早稲田は2回に大量6点をもぎ取り試合を決める

早稲田大、2回に大量6点をもぎ取り試合を決める

愛知	0	0	0	0	0	0	0
	7x	0					

[審] P 田中

1岡内  
2因藤  
3赤木

(早) ○長谷川—赤坂  
(愛) ●山下—安田

早稲田は2回、四球の走者二人を置いて二死から1番石井の左翼前安打を皮切りに連続5本の長・短打で大量6点を挙げ試合を決めた。さらに5回にも1点を加えダメを押した。

一方、愛知は1回に満塁のチャンスがあつたが、長谷川投手に抑えられ、その後も安打を放つものの得点に結び